

逢坂



人・自然と豊かに関わる子どもの育成

よく考える子ども

思いやりのある子ども

たくましい子ども

めざす学校像；笑顔あふれる学校

2学期が始まります！

長い夏休みが終わりました。期間中、担任よりお子様の健康状態をお尋ねする連絡をさせていただきましたが、ご対応ありがとうございました。本校ではお陰様で大きな事故等はなく、9月1日に子どもたちと会えることを楽しみにしています。一方、今年も各地で事故や熱中症により尊い命が失われました。心配な暑さは衰えを知りません。先日、大根の種を蒔こうとしたら近所の方から、「暑いから、今まで伝えられてきた蒔き時より遅らせた方がよい」と言われました。蒔き時もある天候です。2学期の学校行事を始め、学校生活が滞りなく過ごせるよう、熱中症や事故防止に職員一同、尚一層留意していきたいと思っています。

9月の行事予定

※予定の変更がある場合は学年通信でお知らせします。

1	金	登校指導 始業式 避難訓練 特別3校時日課(11:15完全下校)	16	土	
2	土		17	日	
3	日		18	月	敬老の日
4	月	特別3校時日課(11:15完全下校)	19	火	食育の日 3年校外学習(フレンドマート)
5	火	給食開始 5校時日課 6年身体測定	20	水	3年校外学習(フレンドマート)
6	水	ロング昼休みなし 5年身体測定	21	木	3年校外学習(フレンドマート)
7	木	5校時日課 わかば身体測定	22	金	6年移動教室(AM) 葛川宿泊体験学習 4年生保護者説明会
8	金	5校時日課 4年身体測定	23	土	秋分の日
9	土		24	日	
10	日		25	月	クラブ活動
11	月	委員会活動 3年身体測定 教育相談日	26	火	
12	火	ブックママ・パパ 2年身体測定	27	水	エンジョイ活動 下校指導 教育相談日
13	水	1年身体測定	28	木	
14	木		29	金	
15	金	登校指導 学習参観	30	土	

お知らせ

☆10月14日(土)に全校で行う運動会を公開予定です。16日(月)は14日の運動会実施可否に関わらず振替休日となります。運動会予備日は18日(水)です。天候に関わらず14日(土)、18日(水)の両日とも弁当の準備をお願いします。詳細は後日、改めてお知らせします。

☆熱中症予防のため、給食開始後、5～8日の4日間は5校時日課とします。月初めは特に暑さが予想されます。容量の多い水筒持参や登下校時の暑さ対策にご配慮をお願いします。

「 応援の持つ力 」



フランスの心理学者リングルマンは、運動会でよくやる、「綱引き」に関するおもしろい実験をしました。1人で綱を引く場合、100%の全力で綱を引きます。しかし、2人になると1人あたりの出力は93%に落ち込むそうです。3人になると85%。8人で引くと、なんと49%！1人あたり約半分も力を抜くとの実験結果です。被験者の国民性等の影響もあるでしょうが、なんと人間はわかりやすく手を抜きたがるのでしょうか。人が協力する場合、100%×人数分の力を合わせていると信じ

たいところですが、そうではないかもしれないのです。だとすると、一人ひとりがどれだけ力を発揮しようとしているかによって、集団の力量は変わります。人との協力が必要な局面で、手を抜かずどれだけ力量が発揮できるか。これは、子どもたちの将来の自立と社会参加にかかわる、大切な資質の一つです。



1人で綱を引くと100%の全力で綱を引くが8人だと49%、約半分も力を抜く…この実験にはさらに続きがあって、綱引きをしている横でチアリーダーが応援を始めます。すると、49%まで落ち込んでいた力量が全員、ぐんぐん向上するのです。わかりやすいですね。続いてチアリーダーが綱引きメンバーのうち、1人だけの名前を連呼して応援を始めると、その1人の力量がさらにどんどん向上し、その他のメンバーの力量はガククリ低下するという、そりゃそうなるでしょうね…と、これもまたとてもわかりやすい結果となります。しかし、この実験で注目すべきなのは、「応援の持つ力」だと思うのです。

1人で綱を引く場合、勝っても負けてもすべて自分の責任として引き受けねばなりません。だから、全力を出します。一方、2人、3人と集団が大きくなるにつれて、1人あたりの責任感は薄まって、「自分ひとりぐらい手を抜いたっていいだろう…」という思いが強くなっていきます。これが人間の持つ弱さなのかもしれません。しかし、応援があれば、持てる力を発揮しようとし、自分に対する応援を自覚すると尚一層、力を振り絞ることができます。こうしたことは、スポーツの大会や各種コンクール、発表会等で仲間や家族からの応援を少なからず経験した大人は、実体験から頷けるのではないのでしょうか。応援されてがんばれた、乗り越えられた、思わぬ大きな力を発揮できた、という経験を子どもたちにさせてやりたいと思うのです。こうした経験が、自尊感情の向上につながるからです。

まもなく運動会の練習が始まります。音楽会後の学校だよりでも書きましたが、「晴れの日のために辛い練習を超える」チャンスがまたやってきます。音楽会と同じく、しんどい時期かもしれません。だからこそ、練習が始まる前にお子さんを応援してあげてほしいのです。「一番であろうがビリであろうが関係ない。転んだりバトンを落としたりしても、がんばった結果なら構わない。団体演技では、他の子より上手かどうかなんて比べたりしない。とにかく親は、子が全力を出そうとする姿を見たい。運動会の練習や勝敗は、勝つためではなく全力が出せるようになるためにあるんだよ。がんばってね。」僣越ながら、私は我が子をこんなことばで応援してきました。今年は学年部単位ではなく、全校で運動会を実施します。晴れの日が子どもたちのよき成長につながるように、応援が過度なプレッシャーにならぬようご配慮いただきつつ、お子さまに応じたことばで、保護者の皆様の応援をお願いします。